探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：大竹中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
大竹市立大竹中学校	11	296
大竹市立大竹小学校	23	632

（R3.11.1現在で記入）

１　指導上の課題

大竹小中学校は，大竹市内のリーダー校として，大竹市を支える人材育成を目標に教育活動を進めてきた。特に両校とも生徒指導実践指定校，集中対策指定校として数年間で生徒指導体制を確立し，学習面においても規律と意欲を高めつつ，基礎学力の向上と深い学びを実現する授業づくりに取り組んできた。その中で，育成する資質，能力を「主体性」「思考力，判断力，表現力」とし，それぞれの力を培ってきた。その一方で，何のために学習をしているのかという課題意識を児童や生徒が主体的にもつ場面は少なく，習得した知識や技能を使って活用，探究すべき生活科や総合的な学習の時間においても，学年ごとの目標や内容に系統性があるとは言い難い現状である。

２　研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

本質的な問いにせまる課題を主体的に解決しようとする児童・生徒の育成
～リフレクションを活用した生活科，総合的な学習の時間の探究的な学びを通して～

児童生徒に本質的な問いを意識させながら，より意欲的に探究できるような課題に出会わせ，学んだことを活用する必然性を含んだ活動を取り入れる。そして，見通しをもち学びをつなげるリフレクションを効果的に行うことで，課題解決に向けて主体的に思考・判断し，表現することができる児童・生徒の育成を目指す。

（2）資質・能力の設定について

重点的に育成する資質，能力を「主体性」「思考力，判断力，表現力」とする。

（3）取組について

研究を「基礎基本の定着」，「『大竹授業スタイル』による授業改善」，「探究的な学習につながる授業づくり」の三つの柱で進めた。研究の中心は「探究的な学習につながるリフレクションを活用した授業づくり」とした。

【探究的な学習の充実に向けての取組】

① 理論研修
② 「本質的な問い」にせまる単元づくり
③ 授業づくり
・授業展開や活動の工夫
・リフレクションの効果的な活用
・取組の掲示・共有
・「資質・能力系統表」の改善・活用
・ＩＣＴの活用

【小中連携の取組】

① 小中合同校内研修：理論研修や，単元計画の見直し等，計５回の小中合同校内研修会を行った。その中で，小学校と中学校の職員が共通理解を行い，共に実践を行えるようにした。
② 単元計画の見直し：小中９年間の単元計画を見直すことからスタートし，９年間の学びの流れを共通認識して進めることができるようにした。
③ 大竹小中学校「育てたい資質・能力」表：これまでの資質能力系統表を見直し，重点的に育成する資質，能力である「主体性」「思考力，判断力，表現力」について，学年ごとに（中学校は３年間で）学年終了時に付けておきたい力を明確にし，小中９年間を見通して系統的に育てていくことを目指した。

【資質・能力の評価】

① ルーブリック表を活用しての評価
② リフレクションの効果的な活用

３　実践事例

【探究的な学習の充実に向けての取組】

＜授業展開や活動の工夫＞

・様々な体験活動を仕組む

４年「わたしたちの命を守ろう」

「命」をテーマにさまざまな体験活動を仕組んだ。防災についての話を聞く機会，各自が興味をもった災害についてグループを作り新聞を作成，自分の家庭環境に応じた防災リュック作り，災害時の避難場所，避難経路等が記載された「我が家のルールブック」作成，自分で考えた防災リュックを持って，校区内の防災施設の見学や非常食の試食等の体験等，様々な体験活動を工夫し災害について学んだ結果，防災についての意識や，自分の命に対する感謝の気持ちが高まった。

・相手意識を持たせる仕掛け

６年生「ザ・紙太鼓！伝統と心を伝えよう」

授業の中で，子供の思いを大切に活動を展開していくこと，相手意識をもたせる仕掛けを工夫した。１学期に大竹の魅力を伝えるポスターを各自で制作する中で児童の中に，大竹のよさを県外の人へも伝えたいという思いが出てきた。そこで修学旅行の宿泊先へお願いすることを思いつき，ビデオメッセージで依頼。宿泊先からOKの返事が届き，ホテルのロビーにポスターを掲示していただくことができた。この一連の活動を通して，児童の中には，自分たち子供にも大人や社会を変えることができるかも知れないという可能性や手

ごたえを感じた児童もいた。

・地域の人，本物と関わる経験

６年生「ザ・紙太鼓！伝統と心を伝えよう」

大竹の伝統である大竹和紙にスポットを当て，地域の方から紙すきを教わる体験をし，地域の方に教えていただきながら，和紙を使ったマイ紙太鼓を作った。紙太鼓演奏では，地域に住む紙太鼓の演奏曲の作曲者から指導を受け，練習に取り組み学習発表会で演奏した。そして，お世話になった地域の方々の前で紙太鼓演奏とともに感謝の気持ちを伝える「感謝の会」を開いた。学習を通して，児童は地域を大切に思う気持ちを深め，自分たちは地域の様々な人たちに支えられているということを感じ取っていた。

・ICTの活用

中学２年生「大竹市，健康寿命１００歳プロジェクト」

「大竹市健康増進計画」から課題を見つけプロジェクトを発足。最初に個人で情報を収集し，その後，テーマごとにグループに分かれ意見交流をした。活動の中のプレゼン活動ではすべてタブレットを活用した。中間発表として，大竹市役所健康福祉課の方へプレゼンを行った。プレゼンの技術だけでなく，大竹市の現状を踏まえてアドバイスをいただき，大竹市でなければできないことを考えるようになった。

＜リフレクションの効果的な活用＞

・児童の思考を深めるための思考ツールの活用

２年生：イメージマップを使い，入学してこれまでの成長をテーマごとに分けて考えた。

４年生：Ｙチャートを使い，防災の取組を自助，公助，共助に分けて整理した。

５年生：Ｘチャートを使い，みんなが笑顔になるために大切なことを挙げた。ピラミッドチャートを使い，幼児（新１年生）を笑顔にするための取組をフィルターにかけて精選した。

中学各学年：生徒が主体的に考えるために，段階的にイメージマップ，マトリックス，ビフォーアフター等の思考ツールを活用した。

・リフレクションシートの工夫

毎時間の振り返り，学期全体の振り返り，１年間を見通せる振り返り等，様々なシートを工夫した。書くことが難しい時期の１年生は絵と記号での振り返りを行った。特に，毎時間の振り返りを１枚にまとめ見渡せるシートは，単元の中での児童の思考の変化，深まりが見とれるものとなった。リフレクションシートを活用し，授業や単元ごとに振り返りを行うことで，学びを振り返ることができ，まとめに向けてのヒントを手に入れることができた。

４　研究の成果と課題等

（１）成果

大竹小学校　学校評価アンケート（２学期）の肯定的回答

「ICTの活用について」→児童97%　教職員88%

「大竹のよさや課題に気付いている」→児童95%　教職員100%

「活動を通して考えを深める」→児童92%　教職員90%。

大竹中学校の生徒アンケートの肯定的回答

「タブレットを効果的に活用できた」→94%

「大竹市のよい所や課題に気付くことができた」→96%

「自分の考えを深めることができた」→97%

生活科・総合の授業についての職員アンケート肯定的回答

「単元との出会いを工夫する」→小学校96%　中学校93%

「学習内容の工夫をした」→小学校96%　中学校100%

「リフレクションを毎回行った」→小学校82%　中学校64%

「リフレクションを次に生かす」→小学校85%　中学校57%

これらの結果を踏まえて，成果として次の４点を挙げる。

① 活動を通して，大竹のことについて知ることができ，友だちと協働することで考えを深めることができた。

② 校内研修や小中学校合同校内研修等を実施し授業展開の工夫やリフレクションの活用等の授業改善に取り組めた。小中教職員で意識統一して，９年間を見通して児童生徒を育てていく意識を高めることができた。

③ 思考ツールやリフレクションシート等の活用で，児童生徒の思考の深まりにつながる場面が見られ，振り返りを次の学習活動に生かしていける場面が増えた。

④ 様々な場面でタブレット等を用いることで，効果的に活用できるようになり，ICTの活用が進んだ。

（２）課題

① ルーブリック評価について，校内全体として十分には活用ができていない。

② 学んだことを他の教科や生活場面で応用したり，活用したりできるまでには高まっていない。

③ 地域とのつながりを意識した活動を仕組むことはできたが，児童生徒が社会に貢献，還元するまでには至っていない。

④ 児童生徒が自ら意欲的に進めるまでには至っていない。活動の本当の主体が児童生徒となっていない。

（３）今後の改善方策等

・ 児童生徒が活動の本当の主体となり，自ら意欲的に進めることができるように，さらにプロジェクト型学習の意味を考えながら，探究的な学習を進めていく。

・ 児童生徒の取組が社会に貢献，還元するところまでに高まっていくように，活動内容をさらに工夫していく。

・ 学んだことを他の教科や生活場面で応用したり，活用したりできるよう，さらにカリキュラムマネジメントを意識して他教科や行事等との関連を図っていく。

・ ルーブリック評価について，校内全体として有効に活用していくことができるように今後も研修を深めていく。